臺灣新民報 第二九三四號 昭和十一年六月九日（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）（原紙縮圖）（第二版）

廣田內閣は〝新〟一ばれけ無み望

挂冠の外なし

地方長官會議を終れば 陸相が首相と重要會見

【東京八日發】廣田内閣は生れ出でゝ僅かに一週間、その間に於ける閣内の動きは實に目まぐるしいものがあつた。即ち組閣當初は寺内陸相の單獨辭職問題を中心として閣内は動搖し、一時は内閣總辭職の噂さへ傳へられたが、その後寺内陸相の辭意は撤回されたものゝ、陸相と廣田首相との間には重要國策の樹立に關して意見の對立があるとの噂さへ傳へられ、更に陸相の議會に於ける答辯振りが注目されてゐたが、その後陸相は廣田首相と會見して意見の一致を見たと

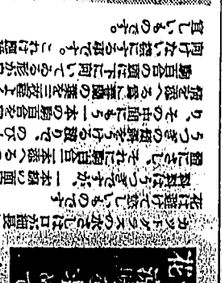
未乾燥米を常食 村民全部が重症

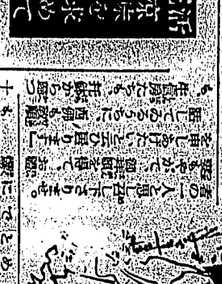
田植を控へ脚氣に罹り 耕作不能に陷る

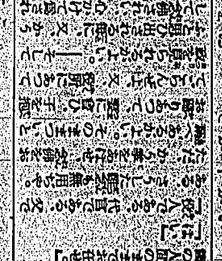
【有明日報社特電】有明日報社が調査にあたることが發表されたが、重症患者續出の原因は、從來から常食としてゐた未乾燥米にあることが發見され、從來から常食としてゐた未乾燥米を食べると脚氣に罹るといふ新しい發見をなし醫學界にセンセーションを與へてゐる同村五百の住民はいづれも未乾燥米の常食に依る重症脚氣患者と判明し水腫の發米大なる此の脚氣化してゐる、このころに罹狀脚氣の發症を受けた脚氣患者は殆んど全滅し百餘戸六百餘人の部落は一瞬にして脚氣のどん底にうめいてゐる實狀で、縣上北郡三戸村に隣接する同村木ヶ平部落人口四百餘人中、既に百餘名の患者を續出して目下田植季節であるにも拘らず田植の新作に一人も出られぬといふ悲慘な狀態にあることが發見され從來

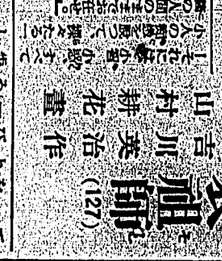
花柳秘話 芸をつくす(一)

踊と声と押出し









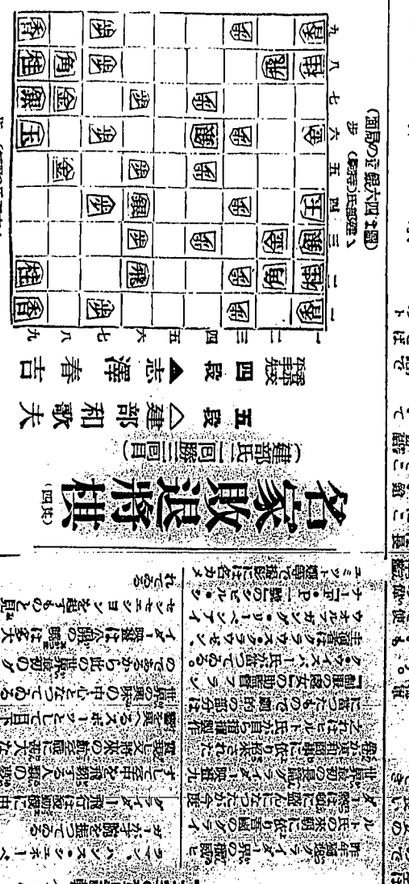
名家歌道将棋

(四段)

(東京朝日新聞三題)

五段 今部利歌夫

四段 志澤春吉



(▲先手の攻撃大詰め)

歩 (持駒なし)

▲志澤春吉四段

△今部利歌夫五段

▲四三銀 △同玉 ▲五二金 △四二玉 ▲三二金 △同玉 ▲四二銀 △三一玉 ▲二二銀成 △同玉 ▲三二金 △一一玉 ▲一二歩 △同香 ▲二一金 △同玉 ▲三二歩成 △一一玉 ▲一二と △同玉 ▲二二歩 △一一玉 ▲一二歩成 △同玉 ▲二二と △一一玉 ▲一二と △同玉 ▲二二と △一一玉 ▲一二と △同玉 ▲二二と △一一玉 ▲一二と

大屯國立公園總會

理事會時金子新莊郡守希望觀音山必加入盲傳

大屯國立公園協會。十八日午十時起。在臺北州會議室。先開理事會。可決昭和九年十月至同十一年三月收支決算。及昭和十年度事業費。同十一年度豫算案。十一時起。總開總會。理事會時金子新莊郡守。盲觀音山路。開鑿完成。自臺北市乘自動車。約四十分間。可到山前。下車後約四十分間。得達山頂。頂上眺望。風景絕佳。希望此後必將觀音山。加入於各種宣傳之內。次倉岡彥助氏。以當評議員。出席報告。關於大屯國立公園。前田州土木局答云。自本年度計畫設立為國費用。開墾自竹子湖起。至大屯山腰自動車路。寬五米半。以外有一二箇所。及開隧道。意見。又總會時。鈴木重孝氏。提議指導標五十枝之增設。恐或不足。望望明廢指示方向。及距離幾何。右議至十一時二十分無事閉會。是日理事會及總會之議長。皆荒木臺銀理事。豫算案說明者。花香泊貫氏。會員市內及關係各部。亦多出席。豫算額收支各九千八百餘圓。事業費八千餘圓。中。國庫補給利子。與銀行之透支利息。現在三十萬圓。增之為一億圓限度。

一、遭洋航海勳成方策。
我海運之振興。首限定東洋為中心之太平洋。今後更擴之於大西洋。其第一階段。先開三幹線。即西貢歐洲間。亞丁蘇伊歐洲間。加奈陀歐洲間。以為昭和十二年度以降。數年續事業。每年計上三百萬圓乃至八百萬圓。以助成之。

一、新規航路之開拓。
航路統制法。施行。結果非除本邦船間。無用之競爭。以其餘力。開拓新規航路。國家補助之一、優秀船之增加。現在我國優秀船。有四百萬噸內外。第一次計畫。增至六百萬噸。以番大線之水客業者。大起恐慌。間貿易業者。大起恐慌。間品不能起水。現在歸州研究對策。

一、航空之普及。
民間航空之發達。與平時交通。經濟。產業開發。及戰時國防實充二大目的之合致。

一、航空科金降下。
技術者養成。飛行機為一般民衆化。

一、航空之網。期國內外充實。定期航空路開拓。先於東洋。南洋開設國際定期線。為二大急務。

一、航空國營。
其大綱如左。

一、海事金融施設之擴充。
國庫補給利子。與銀行之透支利息。

一、遭洋航海勳成方策。
我海運之振興。首限定東洋為中心之太平洋。今後更擴之於大西洋。

一、航空之網。期國內外充實。定期航空路開拓。先於東洋。南洋開設國際定期線。為二大急務。

一、航空國營。
其大綱如左。

遞相方籌海運航空
遞信二大國策
訂七月二日提出閣議

東京八日電。現內閣。具體而行區政。新之政綱政策。訂來七月二日閣議決定。頓母木遞相。亦擬提出電力國營。海運國營。航空國營。即遞信二國策。

大村海軍航空隊。設定飛到臺北之陸上爆撃機及艦

大村海軍機
來北中止
因天候險惡

前田州土木局答云。自本年度計畫設立為國費用。開墾自竹子湖起。至大屯山腰自動車路。寬五米半。以外有一二箇所。及開隧道。意見。又總會時。鈴木重孝氏。提議指導標五十枝之增設。恐或不足。望望明廢指示方向。及距離幾何。右議至十一時二十分無事閉會。是日理事會及總會之議長。皆荒木臺銀理事。豫算案說明者。花香泊貫氏。會員市內及關係各部。亦多出席。豫算額收支各九千八百餘圓。事業費八千餘圓。中。國庫補給利子。與銀行之透支利息。現在三十萬圓。增之為一億圓限度。

高雄市史
囑委員編纂

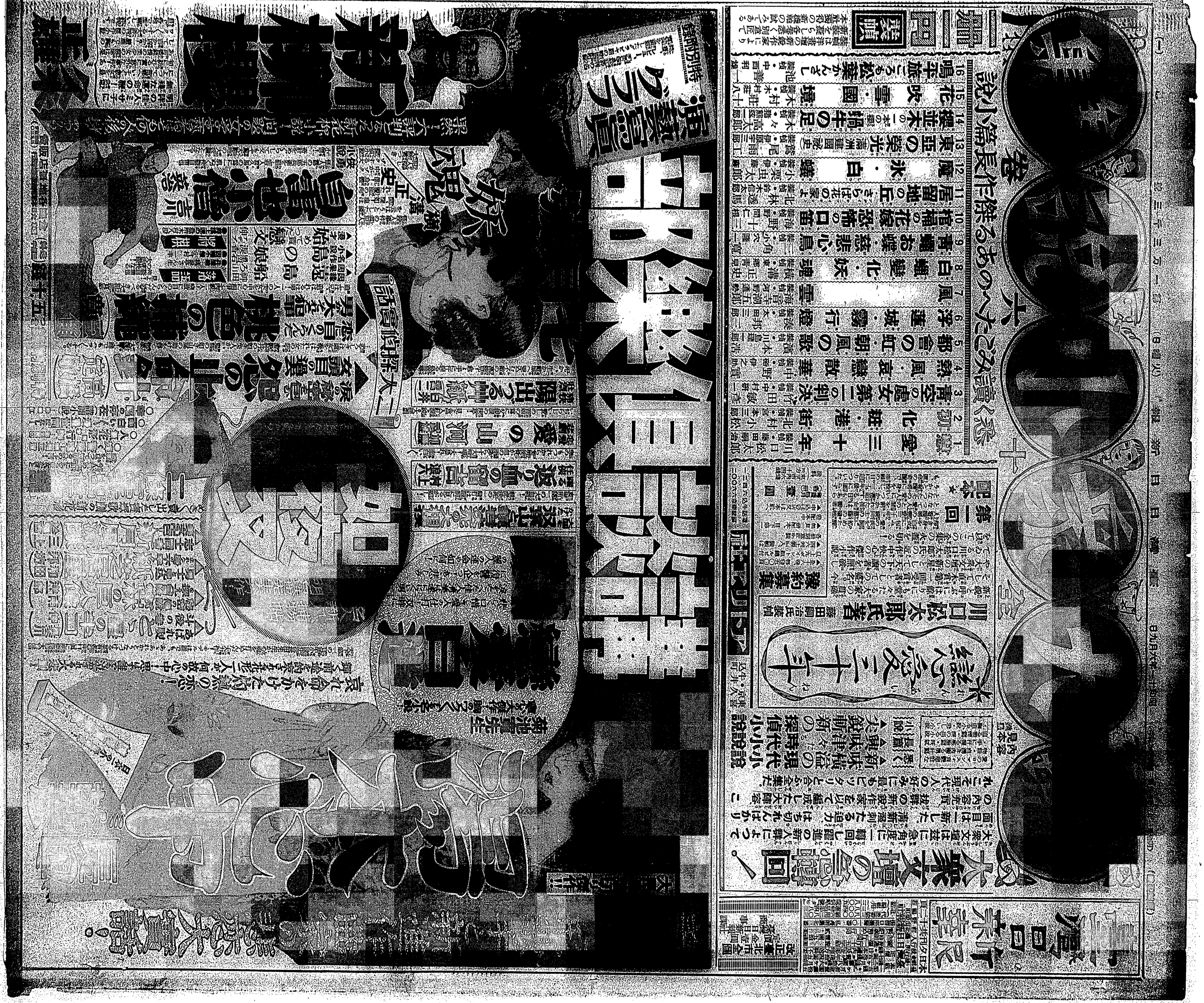
高雄市當局。為市史編纂事宜。現正從速著手。殊悉兵分遣隊視察。吉野村。樂港。在昭和會館觀葬人。跳舞。晚宿同處。八日午前八時。臨自動車赴葬與云。無異議可決。並議前殿工事。因經費缺乏理進。時由隊布生氏。提議乘機努力募集。寄附金。次街助役。提倡中元。昔施改善所。保險之任。

▲米穀組合。評議員會。去六日午後一時。開於組合事務所。決定左記米界。重要問題。同七時半。作散會。

▲貨物引替證。移出所要求之貨物引替證。于米穀業者。顏不便利。故欲變移出所。使復歸從來之貨車積入制度。而為此。需設米友會聯。徵取積立金。以當事業費。以當擬改善的調查。去七日下午。召集黑住教頭。蔡雲記兩名。經利重實實之手再行調查。黑住教頭。至夕刻所其歸宅。蔡雲記陳述。多有可疑之處。欲機續追究云。

臺灣第二豫備
將校臺南分團
舉結團式

臺灣第二豫後備步兵將校團。臺南分團之結團式。如既報以去七朝十時。在臺南第二聯隊將校集會。所舉行。分團員出席者百二十七名。先由笹野分團幹事致開會辭。並拜皇居。唱國歌。分團長河野中佐訓示。披證祝詞。高橋將校團長訓示。林田知事代理致祝辭。於是答辭分團規約照原案。內閣總理大臣。林銑十郎。陸軍大臣。杉山元。參謀總長。閑院宮載仁親王。教育總監。武藤信義。軍事參議官。荒木貞夫。同。真崎甚三郎。同。阿部信行。同。西尾壽造。同。寺內壽一。同。本莊繁。同。南次郎。同。林銑十郎。同。川島義之。同。杉山元。同。畑俊六。同。植田謙吉。同。小磯國昭。同。柳川平助。同。中村孝太郎。同。香椎浩平。同。建川美次。同。山脇正隆。同。山下奉文。同。牟田口廉也。同。松井石根。同。岡村寧次。同。多田駿。同。西義一。同。中島今朝吾。同。磯谷廉介。同。小磯國昭


大衆文藝
第一回
懸賞募集
川口松太郎氏選
募集内容
小説 長篇 短篇 戯曲 シナリオ
締切 昭和二十五年一月末日
発表 大衆文藝誌上
賞金 一等 一篇 金五万円
二等 一篇 金三万円
三等 一篇 金一万円
応募規定
一 原稿は一人何篇でも差支へありません
二 原稿は必ず縦書きにして下さい
三 原稿は必ず縦書きにして下さい
四 原稿は必ず縦書きにして下さい
五 原稿は必ず縦書きにして下さい
六 原稿は必ず縦書きにして下さい
七 原稿は必ず縦書きにして下さい
八 原稿は必ず縦書きにして下さい
九 原稿は必ず縦書きにして下さい
十 原稿は必ず縦書きにして下さい
十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
二十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
三十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
四十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
五十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
六十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
七十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
八十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
九十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百 原稿は必ず縦書きにして下さい
百一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百二十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百三十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百四十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百五十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百六十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百七十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百八十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十一 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十二 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十三 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十四 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十五 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十六 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十七 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十八 原稿は必ず縦書きにして下さい
百九十九 原稿は必ず縦書きにして下さい
二百 原稿は必ず縦書きにして下さい

臺灣か九州に飛行隊を增設か

陸軍の空軍充實計畫

兩廣を離間して先つ廣西を葬る

政治的折衝に黃氏を特派し陳濟棠氏を懷柔せん

討蔣の看板か抗日に早變り

黨國を愛する士は奮起せよと全國將領に通電

討伐の第一聲

白氏に上京を促す

臺拓設立委員は熱産委員から選ぶ

總督を中心にして八日は終日大評定

創立を急ぐので直接折衝する

上京を前に中川總督談

濠洲が反省せず擁護法愈よ發動

十日頃に決定されん

濠洲の新關稅制度

變更せぬ事に決定

村井總領事に對して正式回答

法相の訓示

青年學校の義務制の可否

打合はす

シナチク

文部省異動

九日正式に發令

臺灣各部隊教育主任會議

九日軍司令部にて

謝罪廣告

奥野平次郎

常盤旅館主

近代的美容術　基隆市大沐町橋頭　下地寛
採光の妙ほ　電話九六二番

内臺定期船待合　基隆クルベー汐
潮湯港　電話五六四番
眺望絶佳　一回均一

基隆名物　平戸蒲鉾　基隆驛前　電話二〇番

基隆驛前　船越旅館　電話二〇二番
夏の旅行は海の幸華飯基隆へ
御料理　大潮湯　快樂園　電話五六〇番
基隆クルベー濱海水浴場

基隆驛前　常盤旅館　電話長三番
夏の旅行は海の幸華飯基隆へ

基隆の各旅館は命がけのサービス
基隆市　廣島館　電話八二一番

基隆驛前　野尻商店
トラック營業　引越荷物運搬

基隆市義重町二ノ八
臺灣特產商　南サンゴ店
珊瑚加工品販賣
（各種寶石取揃）　工場電話一九〇番

鳥瞰圖販賣所　基隆驛前　日之出

自動車交通事業法

「とは何か」——獨占性事業低當

補償訴願等の確立

（四）——業者の享有する利益

◇……◇

▲鐵道軌道……鐵道軌道に對しては法律に公益の一つとして「他人に侵されない所の獨占性」を認めてゐると同樣に鐵道の營業に關する權利義務に關

海の虹

(17)

北村小松作
上條重信
小林秀恒畫

謎の日記(一)

「お父さんに二に書いてあるのは父が書いたのにがひありません。これ最後の四枚が…」

大事なものを抱えた様にしてまたら十明りのまえつてゐる左舷にそこは関東丸と今乗つて来たボートの寄つてゐる側とも反対の側だが——に開いた室内をとび出した君はハッパラとその船首目掛けてかけ寄つた。

「ちょっと僕に貸して呉れ給」

時村はやおら表紙をとり除けた日記の最初の頁を開いてその上に目を走らせた。

「四月二十日、月曜日、晴。僕は終ら、危機に瀕す。僕の命は今や全く風前の灯火である。僕は今、小舟底にこうなぎ倒れて、太陽を仰ぎ、星よ、月よ、の美を失わぬ。この上の望みを失わぬ。この上の望みを失わぬ。若しもこの…」

「ここで文章が切れてるぞ!ここまで書いて何かもや上のただ事でない事が起つたんだ!」

時村はおびかぶさる様にして日記を覗き込んでゐたが叫んだ。

「ちょっと僕に貸して呉れ給」

時村はやおら表紙をとり除けた五日前の夜じゃないか!」

「お父さんは一體この船からどこへ行つてしまつたんだらう」

君の眼は忽ち不安の色に満ちた。

「この不思議な異変は君の様子をそうさせから始めてゐたに違ひない。それが君の作為的な行動だとは思えなかつた。

あの日、船長の部屋の明りがいつまでも消えないので、いぶかしく思つた君は、自分が船長に代つて、事件の一役を買つてゐるのではないかと疑つたが、時村は、この青年特有の強い好奇心から、ただ一途に父の安否を気づかつてゐるのだと見てとらないのだ。

「ね、正木君!君は本當にお父さんの安否について何も知らないのかい?」

不意に時村がたづねた。

「知りません、とも、知つてゐます、とも答えないで、こんな事ばかりしやべつてゐます!」

「君は正直に云つてゐるんだらうね!」

時村にはいかさま疑ひ深くして一日も気を許せない男であつた。

「何ですつて?」

君が憤然として椅に目を走らせた。

「それはどう云ふわけなのですか?父の行動とは…」

君の眼は輝きを増し出した。

「僕も今はつきり云ふわけには行かない。だが、これだけは云へる。君がもし我々と云ふと僕と船長だが我々に重大に行動して呉れるならば僕も亦君に重大に関そうと云ふ事だ。」

「勿論、僕は初めつから重大ですよ!」

君が憤然として椅に目を走らせ

發芽による米作被害
百萬圓を突破か
鳳山、岡山、高雄が被害甚しく
關係方面頗る憂慮

【臺南電話】當地州下の一期作は目下收穫の最中にして既に收穫を了したるもの多きも、本年は豫想外の降雨續きにて發芽甚しく、殊に鳳山、岡山、高雄の三郡は被害甚大にして、其の被害額は百萬圓を突破するやも知れずと關係方面は憂慮しつゝあり、其の被害狀況は左の如し

【鳳山電話】鳳山郡下の一期作は目下收穫の最中なるが

TRADE MARK

心臓強化と治病に

本劑の應用最も適確

ジギタリス様の效力ある

アポセン綜合救急劑

強心・殺菌
解熱・消炎
内服劑

心臓病に對し強化と治療の能機疾患に

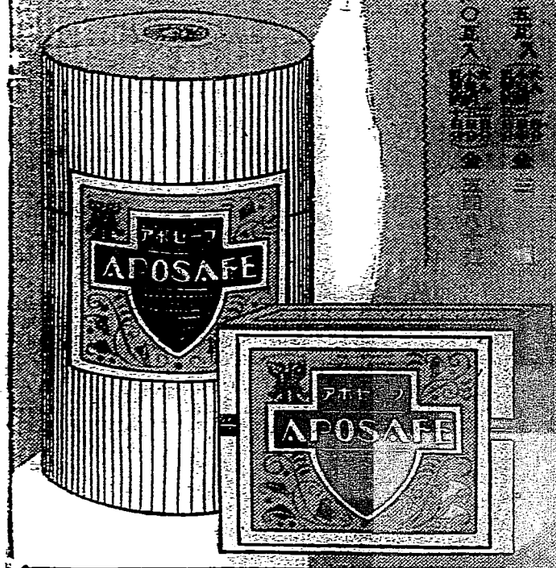
絶對自信を以て推奨

本劑は體内に入つて最も迅速に吸收分解し易き植物及動物ホルモン中最も稀有にして高貴なる藥劑數種の配合劑にして體内總ての毛細血管に强力なる活動を與へ其機能を亢進ぜしむると共に配合藥の各有效成分が其の疾患に對し最も迅速に分解作用を發揮し血液中の毒素及體内組織中に侵入せる各種の有害菌及疲勞毒素を吸着殺菌し急速に尿と共に排泄す。又罹病せる各器官に對しては大なる活力を與へ且つ内臓諸器官の炎症を消滅せしむるが故に慢性痼疾の心臓病は勿論各種の症狀より來たる心臓衰弱及び肺炎、チフス、疫痢、腸炎、赤痢の如き高熱又は傳染性腸疾患並に惡性下痢を持續する患者に用ひて注射同樣最も迅速に奏效す

適應症

心臓疾患及衰弱
高熱性疾患
惡性腸疾患
乳兒小兒疾患
身心過勞・精力衰退

本劑に效果を認めざる場合に於ては注意。



東京大學藥局特製劑

本劑の優秀なる治療效果

醫學博士（ベルリン）松岡勇先生
醫學博士（獨逸人）余田忠吾先生
醫學博士（ベルリン）上村雄先生
醫學博士（ベルリン）宮井茂吉先生
推奨

◎腦貧血、動悸、息切、疲勞等の如きは一回の服用にて治癒す。
◎凡ての疾患による心臓衰弱は一回乃至二回の内服にて著效し微弱に陷れる脈搏に對し直に活力を與ふ。
◎各種心臓病は……五日乃至一週間

◎喘息（發作は……五日乃至一週間）
◎急性肺炎……一日乃至二日乃至三日
◎腸炎、赤痢……五日乃至十日
◎チフス……五日乃至十日
以上の内服にて著效す。（但し慢性腸炎、慢性肺炎、慢性チフス、慢性赤痢は……五日乃至一週間）

本劑は發賣以來百年餘に亘つて本邦最初の開閉鎖五十餘の最も權威ある歷史と絶大なる信用の下に醫學大家より盛せられたる各種疾患に對する千數萬の處方箋を基礎として至苦心研鑽の結果創製せるものにして最も迅速に心臓の强化を計ると共に解熱、消炎、殺菌の綜合的效果を發揮し而かも絶對に何等の副作用なく突效する眞に理想的の内服劑なり。而して其の適確なる治療的效果は諸醫大家より天下の信賴厚く又多數の感謝狀より明かなり

製造元　大阪市　高橋盛大堂藥品製造部

本劑の效力ある治病と強化と

ジギタリス様の效力ある

アポセン綜合救急劑

心臓病に對し強化と治病に

本劑の應用最も適確

現役軍曹が兇悪な強盗殺人

今津事件犯人は八日市分隊員

逮捕の刹那拳銃で自殺

【大津八日發】去る三日午後十一時頃滋賀縣高島郡今津町附近の陸軍演習場第二號地本部廠舍前の道路で大津市松屋町古物商八木儀次郎氏(五七)を斬殺し所持金五十圓と金側時計一箇を強奪した兇悪な強盗殺人事件に就き今津署に於て活躍を續けて來た結果犯人は意外にも現役憲兵軍曹八日市憲兵分隊員西本鯛太郎(三二)と判明、依つて軍當局は事件を重大視し司法當局と協議同時に許事の揭載を禁止すると共に西本軍曹を極力調査の結果五日午前三時半頃四條高須に寄港した商船紫丸に潜んでゐたのを發見し拘引せんとするを犯人は係官の隙を窺ひピストル自殺を遂げた、當局では其後一應事件の取調べを行ひ八日正午記事を解禁した、西本は滋賀縣栗太郡信楽村の出身で昭和九年伏見憲兵分隊に志願入營したが先年妻に死別以來家庭の寂しさから二人の子供を抱へながら酒色に狂奔し遊興費に窮した所から取込詐欺を計畫し五月二十九日及び六月一日の二回に亙り八木氏に電話で八日市飛行隊の揮下飛行機三臺を千五百圓で買はぬかと交渉の上三日午後七時頃私服で同家を訪れ揮下機の內一機だけは陸軍演習場にあるから今夜終列車で今津に行き四日朝の入札に參加してはどうか、尚ほ千三百圓を用意し置けと言葉巧みに誘出し同夜九時十三分發大津發今津行列車で同行の上前記街道の暗闇を利用して殺人強盗の兇行を演じたものである

寫眞　(上)準備成れるオリムピック本會場(下)七月各國選手の到著次第、直ぐ這入れるやうに既に九分通り出來上つた選手合宿のオリムピック村(競技)著々と仕上がつて行くオリムピック本會場入口の塔(本社中西ベルリン特派員發)

内地で増税すれば 勿論、臺灣も追隨

嵐田財務局長神戸で語る

【神戸八日發】本社特派員】嵐田財務局長、白勢參事、近江時計協會二瓶會長、兒玉貴金屬の諸氏は豫ねて懸案中の時計税撤廢問題に關し八日午後四時から神戸市内某所で懇談會を開いたが席上嵐田局長談「時計税撤廢の問題は豫算編成方針に就き會合を行つた際種々考慮を拂つたが内地の增税が來年の豫算で行ふ事になる、勿論臺灣でも實施すれば實施いやうにしたい、自分の考としては增税は出來る丈避けたいが豫算の關係上所謂不急産業の整理の程度が低いのだから仕方がない、それより、臺灣と内地の工業化に向つて進むと内地の關係工業に比し臺灣は特殊工業となる傾向があるから、内地で增税すれば臺灣もやはり增税しなければならぬ事になる」と述べ内地産業の助けて右

來年の豫算編成 増税などで大變

朝日丸で歸臺した 中島主計課長談

【基隆發八日發】近海郵船朝日丸(八一日午前十一時半基隆着)外客船で四

角田事件は逆戻り

注目される汕頭市長の今後

籍民に惱む厦門市長

【東京八日發本社特電】我がオリムピック代表選手の相次ぐ出發に今や全國に歡呼の聲が起つてゐるがこの華やかな雰圍氣にあつて八十萬圓と云ふ巨額の豫算が二日の衆議院本會議に上程されるや、政友會の中島(千)、民政黨の永井(柳)兩氏から「オリムピック參加費は國民の負擔すべきものではない、寄附の募集は何故政府自ら當らないか」と痛烈な質問があり、これに次いで東京野球聯盟の三宅(大)、放送協

援聲の民國なん盛

内田前鐵相の骨折で 纏まつた八十萬圓

オリムピック代表選手も 意を安じて闘へる

新らたに七百輛の 貨物車を購入

鐵道部が明年度の豫算 二百四十餘萬圓で

日満生命

東京・丸之内

列車魔横行の シーズン愈よ來る

乘客の自衛が何より肝要

「蠶食地圖」を作り 遲羅! 擧國復興へ

國防相が音頭取り

六百の匪賊と 渡邊○隊激戰す

多大の損害を與へ追擊

基隆の瓦斯工事 道路舖裝前著手か

桑原市尹の希望を容れ

手繰船續々 南洋へ

人妻・姉婿に暴行さる

あはや一騒動 未然に發覺

洋服店の外交員 金を橫領

今日の日

御會葬御禮

近藤勝次郎
親戚一同

軌條危機難出速力
不能順應現時代
鐵道工務課新規要求

臺州內地。相機發揮列車速度。縱臺灣鐵道。因軌條三十瓩之小軌道。且外線路之破損甚。無從措手。現如昨年之大停駛會。交通局鐵道部運輸課企圖列車高速度。而驟大急速。然被蟲害。致阻碍發展。收成減云。

羅東生熟魚
場外買賣
郡將設法禁止

羅東街自數年來。在場外買賣鮮熟魚等。因手數料低廉。大南澳。利潤甚。頗增減。為是一本年三月改正魚市場條例。及處理規程。採卸賣人及買受人之制度。然尚是經若干年。加入羅東水產會社。其餘二名。組山海商店。均入魚市場為卸賣人。將來內陸相入閣條件之一。會提示廣田首相得其承諾。寺內陸相就任特高明此點。確保軍秩。謀國民生活安定。國民福祉增進。聞乎滿進。寺內陸相相。欲舉其實。提示下研究中之國防國策根幹。地方長官會議後。將要求廣田首相。徹底的實行。後組閣新閣。

石垣局長
東部視察

石垣警務局長。去六日午後二時五十四分到車。自臺東。直乘自動車。千里赴臺東。宿一泊。七日午後。向關山。八日午前。向成功。九日午前。向卑南。十日午前。向臺東。十一日午前。向花蓮港。十二日午前。向新城。十三日午前。向太魯閣。十四日午前。向大理。十五日午前。向霧社。十六日午前。向埔里社。十七日午前。向竹山。十八日午前。向集集。十九日午前。向草屯。二十日午前。向南投。二十一日午前。向彰化。二十二日午前。向鹿港。二十三日午前。向臺中。二十四日午前。向大甲。二十五日午前。向苗栗。二十六日午前。向新竹。二十七日午前。向桃園。二十八日午前。向大溪。二十九日午前。向淡水。三十日午前。向基隆。七月一日午前。向宜蘭。二日午前。向羅東。三日午前。向蘇澳。四日午前。向花蓮港。五日午前。向臺東。六日午前。向臺北。七日午前。向臺中。八日午前。向臺南。九日午前。向高雄。十日午前。向屏東。十一日午前。向恆春。十二日午前。向臺東。十三日午前。向臺北。十四日午前。向基隆。十五日午前。向宜蘭。十六日午前。向羅東。十七日午前。向蘇澳。十八日午前。向花蓮港。十九日午前。向臺東。二十日午前。向臺北。二十一日午前。向基隆。二十二日午前。向宜蘭。二十三日午前。向羅東。二十四日午前。向蘇澳。二十五日午前。向花蓮港。二十六日午前。向臺東。二十七日午前。向臺北。二十八日午前。向基隆。二十九日午前。向宜蘭。三十日午前。向羅東。三十一日午前。向蘇澳。

閩省設銀行
統一金融

廈門本社特置員。稱福建省政府。欲謀全省金融整備統一。全省六十四縣中除僻境十六縣。各縣一律設福建省銀行辦事處。既派行員準備。為此該行紙幣額增加。上海方印刷各種紙幣。同時各地雜商店鋪行之地方紙幣。勿論重管束。福安縣既沒收商店私發紙幣十數萬元。省政府決定增加銀行基金五十萬圓。而欲擴張業務。近由廈某省五百二十數名中考試採用新行員五十名。

新式製糖
對岸籌設工場

廈門本社特置員。稱漳州。設立附近農民與銀行。其他借入五萬元。購入蔗苗三百萬本。預於附近二帶十二月採收期。迫在目前。長泰製糖廠。方議對策。

總督上京
就臺拓創立
向中央述謝

中川總督。關于今年緊縮之公債拓殖株式會社法案之成立。已通過議會。昨見創立委員。石塚警務局長。今回議會。可參考不參。俟歸臺後研究之。余按搭八日神戶便輪抵臺後。即欲著手編成來後。于七日南旋向高雄。

增稅研究二三年
大體案業已作成

關于增稅案。臺灣。已于二三年前。繼續研究。案之大體已成。然大藏省方面未定。故臺灣將如何。尚不知。今回議會。可參考不參。俟歸臺後研究之。余按搭八日神戶便輪抵臺後。即欲著手編成來後。于七日南旋向高雄。

萬華青年團
新選團長

萬華青年團員。去七日午後一時。會於紅柳信組樓上。表彰南班副班長黃廷旺。攜刀再到橋上。與沈爭論。乘其不備。傷沈手。幣。雖難事件。是以嘉義署刑事課。每夜買雨警戒。然亦無何等革新的政策。到底無存續之價值。乃為挂冠故求街當局。根本的改革。又街當局者革氏談。若中街所定之條例。及依請書請條件實行。則無問題也云云。

國民革命改稱
抗日救國軍
檄西南派

廣東八日發同盟。第一集團軍總司令陳濟棠。第四集團軍總司令李宗仁。前敵總指揮。白崇禧氏。七日午後。連名對全國發領。

▲民政黨　外貴勵　政府。

舉廬政一新之實。內謀政黨更生根本之黨費自給自足。一掃從來與財閥關係之宿弊。確立黨之經濟的基礎。迄今各政黨尚未有行之黨費公開。舉最正確黨之實。

襄由小山（倉）黨資部長計畫。立案中。已得成案決定開始積極的活動。

可川總裁自了陣頭。樓內幸雄。永井柳太郎。小泉又次郎。小山松壽

東京八日發同盟。民政政友兩黨。前於特別議會。對政府要求確立政二新所開根本對策。提案於次期通常議會。一方政民兩黨。與政府之監政二新工作相呼應。政黨自體亦更始二新。謀回復政黨信用以舉庶政革新之實。政黨更生所關政民兩黨員體案大要如左。

政民兩黨肅黨更生
謀復政黨信用
以舉庶政革新之實

俵孫一。大麻唯男。川崎克。齋藤隆夫氏等。黨首脳部。各立第一陣。全國各地。開講演會並座談會。昨見前云。結成町村單位之民政倶樂部。實施年額四十五萬圓之黨費。中央地方折半。謀黨之經濟的確立。而謀黨費部之活動。六月下旬。在大阪開大講演會。舉第一聲。今年末全國的開始活動。

▲政友會　前議會終了後之幹部會成案。整頓總務中心之革新的陣容。整頓顧問制。近日中更以前閣僚竝黨之長老。設置新機關。名称倶備。氏總裁諸問機關。擴充政務調查會之組織。黨內人材。集中於此。分應急對策及恒久方策二部而研究之。關於恒久。方策。正更始一新。當俟於來內閣。故政友會期於將來。樹立國策。豫整準備。而新國策。俟政務調查會員任命後。即行研究調查。長藤警與故當面于艱弱。而當面對縱貫線。亦欲改為三十七瓩。製分岐器。要用大幅依。木十四本。增本為十五本。而要求所要經費二十八萬五千圓。

二、分岐器強化　雖如何改增設枕木。而最重要之分岐器。尚用三十瓩軌依制。頗遇于脆弱故當面于縱貫線。亦欲改為三十七瓩。製分岐器。要求所要經費七十六萬圓。該三天案。擬提出于近將開會之國議。部明十二年度部內豫算。對總額三百五十九萬五千圓。相當已經經費之豫算。努力使通過。關臺灣鐵道事業根幹之鐵道線路保線強化工作。新加二屆於意云。

中國沿岸航路
商業不況
輪船停運

廈門本社特置員發。中國沿岸航路。地盤最堅固之英國太古船舶公司。最近業務不振。本月一日起。以沿海商業不況為理由。決定停航查港。廣東。上海。天津航路之惠州。廈州等七隻。又上海。廈門航路。九隻。汕頭太原。新泰。福陽等四隻。就航。今回改燕南。太原二隻運航。每週往復二回云。

福州海關等
臨檢商人
沒收日本品

函館福州航路大球丸。去八日入基隆港。因國江張水不能載取福州杉。乃臨淡

政民兩黨肅黨更生
謀復政黨信用
以舉庶政革新之實

東京八日發同盟。民政政友兩黨。前於特別議會。對政府要求確立政二新所開根本對策。提案於次期通常議會。一方政民兩黨。與政府之監政二新工作相呼應。政黨自體亦更始二新。謀回復政黨信用以舉庶政革新之實。政黨更生所關政民兩黨員體案大要如左。

▲民政黨　外貴勵　政府。

舉庶政一新之實。內謀政黨更生根本之黨費自給自足。一掃從來與財閥關係之宿弊。確立黨之經濟的基礎。迄今各政黨尚未有行之黨費公開。舉最正確黨之實。

襄由小山（倉）黨資部長計畫。立案中。已得成案決定開始積極的活動。

可川總裁自了陣頭。樓內幸雄。永井柳太郎。小泉又次郎。小山松壽

南部兩州
蓬萊米豐收

新竹州下一期蓬萊米。本及本年結實。實收高。一、二期作。其中均屬早植。而紅肉內李。南蕪。因與等人。其餘二名。組山海商店。均入魚市場為卸賣人。將來內陸相入閣條件之一。會提示廣田首相得其承諾。寺內陸相就任特高明此點。確保軍秩。謀國民生活安定。國民福祉增進。聞乎滿進。寺內陸相相。欲舉其實。提示下研究中之國防國策根幹。地方長官會議後。將要求廣田首相。徹底的實行。後組閣新閣。

北部火力
發電機購入
松木社長談

臺灣電力會社長松木幹一郎氏。去六日歸臺。談余更要二個月。本年結實成績。與紅肉內李。無蕊赤屬收。而屬梨。雖品質佳良。然被蟲害。致阻碍發育。收成減減云。

蘭陽三郡
紅肉李豐收
擬配往滿洲國

蘭陽三郡下。夏季。出產之紅肉內李。南蕪。屬梨等。其收成熟期。正日照適度。均屬早植。而紅肉內李。蘭陽名產。近成熟期。正日照適度。均屬早植。其收成熟期。

滿鮮遊記
（其八）
奉天（瀋）

奉天府。為真青拔遠來。進攻安市城不下。賈都新京。置奉天省公署於城內。以統轄省務。舊大內。為清帝宮殿。在城內中央。為清太祖。太宗兩帝宮居。外有崇政殿。文溯閣。科舉。文廟。內陸列祭自然地一者之間。總領事館。最近繁有各國總領事館。

嘉郡甘蔗品評
準備磋商會

嘉義郡主催昭和十一年期甘蔗品評會諸準備事務磋商會。訂來十日十一前九時起。開于嘉義郡役所會議室。出席者為江口郡守澄林川農務主任。及關係會社大林新高製糖。蔗頭日糖。被地人陳猛之家。催討債項。參加。且將由車部。借受柒統。使市民練習。現正與當局交涉中云。

新竹市主開
射擊大會
市民均得參加

新竹市當局。訂來十二日。在新竹刑務所後射擊場。主開市民射擊大會。一般市民。均得自由參加。從來日各月一回。舉行揚揚國旗。以祝紀念。

礎商聯合
臺中支部

臺中支部。商組合林大在民。揚銀臺中州漢藥商組合聯合會。臺中市部。藥組商會。東藥州藥商市部。藥組商會。于去七日午後一時。假同市榮町。中西製藥會社樓上。開聯合會。出席者彰化市內。及北斗。竹山兩郡。組合員。計二十地。逸需要者。探辦上茶。有相當買賣。商況活氣。然而一般買易之產出買賣。與產地。商機未調然。至秋茶開期。相茶買賣。現在有二三內地。端境期。市價區々不一。在茶業雖無標準。然觀前。概略如次。粗製包種茶大葉烏龍種。上三圓。中二十三圓。下十八圓。同青心種。上三十二圓。中二十三圓。下十八圓。同青心種上二十六圓。中二十一圓。下十七圓。同青黃柑種上二十七圓。中二十一圓。下十七圓。同時茶種上二十六圓中二十圓。下十五圓。粗製烏龍茶大葉烏龍種。中三十五圓。下卅圓。同青心種中三十五圓。下二十圓。同黃柑種中二十一圓。下二十七圓。同時茶種中二十八圓下二十三圓。又粗製紅茶大葉烏龍種。上五十圓。中四十圓。同青心種上五十圓。中四十四圓。同黃柑種上四十七圓。中三十七圓。同時茶種上四十三圓。中三十二圓云。

基市七日夜半
火災傷害
事件續出

基市七日夜半。有檢舉保護。

宜蘭街市區改正
六日第一回委員會
驛前及南北門大通先築

州圖庫均分負擔。工事期間。按一個年。席上課審岳氏質問。總經費若按十萬五千圓。尚有不足之感。若倍加何如。中山。佐藤答加何。論既改正工事。宜先派委員數名。調查改築買收。額若干。及對重藤建築組合長。問若工事進行。後組閣建築資金。可能融通與否。林元弼氏。一方面對內閣。飛躍發展。而於事本案實務之國防強化。當保持財政之健全。希望下國防國家根幹。地方長官會議後。將要求廣田首相。徹底的實行。後組閣新閣。

臺中州農會
籌增產卵
設置養鷄所

計畫積積的增產鷄卵。在種畜場。飼育名古屋種四十六隻。白色蛋鷄。產二十八隻。蛋產

下淡水溪
浮地種煙
邀移民百餘戶

殖產局與專賣局共同。邀煙草耕作移民到屏東郡下。集集地區數百。八十五戶。而應者超過。佐賀。長崎。熊本。鹿兒島。大分。高知。香川。德島諸縣。應者百二十六戶。宮崎。岡山諸縣未定。島內決由高雄州。探川二十五名。其他臺北州。於本月一日。花蓮港。於五日詮衡。移住豫定地下淡水溪流域。方述六十五之移民家屋。按主七月二十日頃完成。同時移民全部入村。八月下旬播種移住當初。即欲使之耕作煙草云。

斗六
鄉軍列席

斗六分鄉軍人分會天橋木村中島三少尉。去七日列席。于嘉南農林試驗場。舉行有志講習會。開催斗六郡內各庄之出所者。會員。而斗六郡內各庄之出所者。

州稅調查

九日午前。在斗六出張所。開催州稅調查委員會。而斗六郡內各庄之出所者。

產腦受賞

埔里專賣局出張所。發國稻荷神社。多數生蕃。去六日午。到九時。在出張所會議室。舉行十年度表彰式。並授賞者與。其受賞者與。

埔里
商座談會

埔里中元地。里內商取引座談會。去七日午前十時半。開於地里市役所會場。出席者。埔里中元。五郎助役。小前川郡役所。及各部長。各代表者。

斗六
新湯完志（其二）
推身旅亭　聽人唱曲

（二）

去個大郎日。三別抄之事。我早有聞。是為防備江南。特意調派。不料竟亦調於梁山。塔二郎曰。他不會回應。是年夏六月。梁山之眾不到。近梁之船。悉數來。與官軍決一死戰。俱在海上。是時元宗主郡之眾。皆命為兒女情長。先鋒無能。然日知其以來。額對我戰。昨日知已相逢。偶然晚戰。塔二郎曰。我今珍元宗主之家臣。奉命為監軍。古仙都水路先鋒。人不歸降。此心應。倘能陷此不降。只有六日餘。午後八時。宮之紅前。長個大郎曰。時我尚有項伸。倘不降。今不歸。六月二日。同志浮海。我全不知。郎知。是所謂兒。塔二郎笑曰。是所謂兒。塔二郎曰。我今珍元宗主之家臣。奉命為監軍。古仙都水路先鋒。人不歸降。此心應。倘能陷此不降。只有六日餘。午後八時。宮之紅前。長個大郎曰。時我尚有項伸。倘不降。今不歸。六月二日。同志浮海。我全不知。郎知。是所謂兒。塔二郎笑曰。是所謂兒。塔二郎曰。我

詩壇

說

（第三種郵便物認可）